

農林水産大臣賞受賞

～『みんなの力で地域を活性化！

じよかつぜんじ
如活禪師ゆかりの里 中荒井』～

なかあらいく
受賞者 中荒井区

みなみあいづぐんみなみあいづまち
(福島県南会津郡南会津町)

■ 地域の沿革と概要

南会津町は福島県の南西部に位置し、那須山系と越後山系の連なる山々の合間に、阿賀川と伊南川の2つの水系を有している。この2水系の支流沿いに5本の国道が走り、集落は主に国道沿いの標高約400～800mの地域に形成されている。隣接する栃木県とは国道121号により結ばれ、日光、鬼怒川温泉などへの交通網が整備され、鉄道は、東武・野岩鉄道・会津鉄道が東京方面から鬼怒川温泉を経由し、会津若松駅までを結んでいる。気候は、夏は朝夕しのぎやすく、冬は厳しい日本海型に属し、豪雪地帯、または特別豪雪地帯に指定されており、この雪を利用して各地にスキー場が整備され、その良質な雪は根強い人気がある。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

中荒井区は、南会津町の中心部より南方約4kmに位置し、国道121号に沿って形成され

第1図 位置図



第1表 地区の概要

事項	内容
地区の規模	集落
地区の性格	地縁的な集団等
農家率 (内訳)	24.4%
専業別農家数 (内訳)	総世帯数 123戸
	総農家数 30戸
	(販売農家) 29戸
	専業農家 7戸
農用地の状況 (内訳)	1種兼業農家 5戸
	2種兼業農家 17戸
	総土地面積 777ha
	耕地面積 39ha
	田 28ha
畑 11ha	
耕地率	5.0%
農家一戸当たり耕地面積	1.3ha

る集落で、会津と関東を結ぶ交通の要所にあり、集落内に(株)会津鉄道会津線中荒井駅が設置されている。

集落は令和 2 年 1 月 31 日現在、人口 316 名、123 戸、65 歳以上の高齢化比率 44.5%となっている。地勢としては、集落の西側に阿賀川が流れ遠く日本海に注いでおり、その東側と西側には山々が連なっている。

農業は、水稻を中心にそば、アスパラガス、りんごの生産が盛んである。昭和 54 年から昭和 62 年にかけて農地 62.1ha を整備し、現在その農地は農業法人に集積され、アスパラガス、そば等が作付けされている。平成 30 年の主な農作物の作付状況は、水稻 29ha、そば 44ha、リンゴ 3 ha、野菜 1 ha となっている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

中荒井区には以前より「集落でできることは集落で」の精神があったが、最近は少子高齢化による人口減少で空き家や独居老人が増加し、区民同士の関係が希薄になり、集落機能の低下により集落社会の維持が難しくなっていた。また、離農や鳥獣被害による遊休農地が増加し、優良農地の維持管理の課題も顕著化していた。さらに、区の運営は区の役員のみで行っており、集落の現状を把握・共有し、活性化するという視点がなかった。

一方で、中荒井区には江戸時代に禅を広め、優れた医術で人々を救ったとされる「如活じょかつぜんじ禅師」の墳墓・仏塔があり、かつては禅師の命日近くに供養のための墓前まつり「如活祭」が行われていた。この祭りを区の役員が中心となり、平成 21 年に区民総参加で復活させた。これをきっかけに集落内外の人たちの交流が広がり、地域づくりの機運が高まった。また、平成 26 年に「中荒井コミュニティセンター」を整備した際に「快適な中荒井集会施設づくり委員会」を組織し、区民から



写真1 ワークショップ

委員の公募を行った。委員を中心に区民を対象としたワークショ

ップを開催し、施設の利活用について区民の意向を反映させた。施設整備も区の業者が行い、看板等も区民が刻字、制作することで区民の団結力や参加意欲が向上し、その後の区民参加のむらづくりのきっかけとなった。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

集落の活性化を図るためには集落の課題を把握し、集落の持続的経営と集落社会の維持を図るための指針が必要であることから、平成 25 年度に「なかあらい地域活性化（元気づくり）計画～じょかつ禅師ゆかりの里づくり～」を策定した。

この計画策定にあたっては、集落の運営に関する課題となる①集落機能の維持、②優良農地の維持管理、③災害・雪対策、④集落内の共助を踏まえ、「中荒井に生まれ、育ってよかった」をスローガンとして、今後の集落の再生と活性化を目的とする計画を作成した。作成には県事業を活用し、以下のデータを整理した上で、集落運営に関する諸課題に対処する再生計画を示した。

○集落の実情を示す数値的データ（人口・世帯数・年齢別人口構成・一人暮らし世帯数・後期高齢者世帯数）

○集落の現状を示す集落地図（一人暮らし世帯・後期高齢者世帯・空き家・遊休農地・防火設備）

○旧分校利活用区民意向調査の実施結果

なお、計画には町や県の事業を適切に活用することを明記し、無理のない区の運営を目指した。

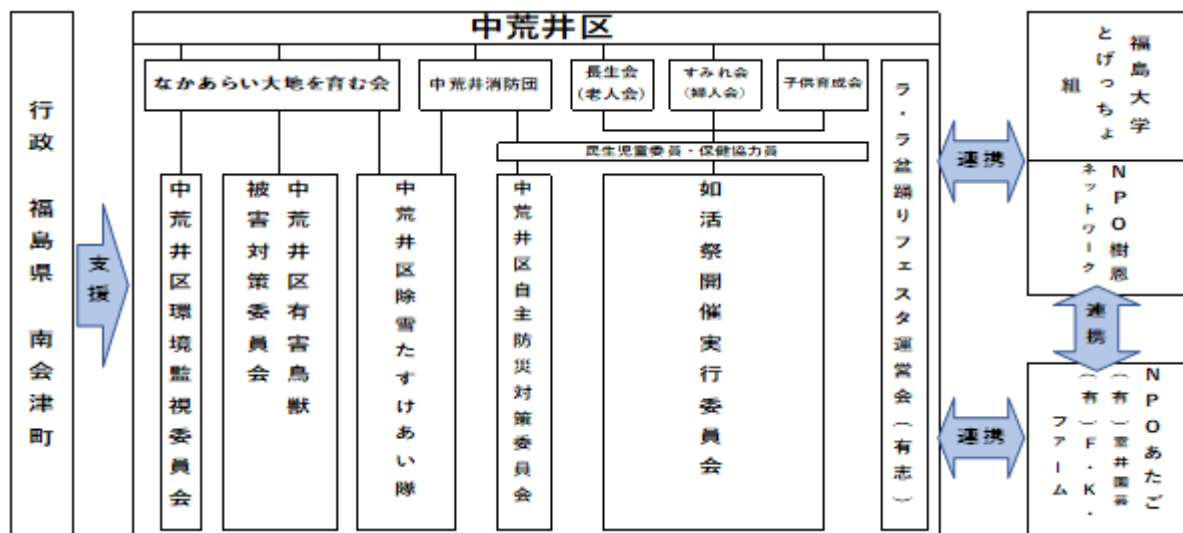
さらに区民へ対してはワークショップや会報を通じて進捗状況を通知したことにより、今後の事業に関する理解が深まり、スムーズな事業実施が可能となった。

（２）むらづくりの推進体制

ア 組織体制、構成員の状況

中荒井区は、中荒井区住民を中心に、関係機関・団体等と連携して専門委員会等を設置し、役割分担をしながらむらづくりを推進している。

第2図 中荒井区の組織体制、構成員の状況



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

① 福島大学地域交流サークル「とげっちょ組」

地域活性化に取り組む福島大学のサークルである。「とげっちょ」とは淡水魚「イトヨ」のことで、中荒井区に生息していることから命名され、中荒井地区の伝統行事等に参加しながら、過疎の課題解決に向けた取り組みを行っている。

② 認定NPO法人^{じゅおん}樹恩ネットワーク

環境の保全改良、地方文化の発掘と普及、過疎過密問題の解決のため、都市と農山漁村の人々をつなぐ活動をしている全国の団体。中荒井区は樹恩ネットワークが開催するイベント「^{もり}森林の楽校^{がっこう}」の体験場所を、毎年提供している。

③ NPO法人あたご

障がい者(精神・知的・身体)等が、農作物の生産・加工や間伐材割りばしの製造等を行うことにより、安心して学び、働き、生活できる社会環境づくりを目指す社会福祉法人である。中荒井区では、農地や間伐材の提供を行っている。

④ (有) 室井園芸、(有) F・K・ファーム

中荒井区で農作物の栽培を行っている農業法人で、中荒井区

が整備した農地を活用して生産を行うとともに、鳥獣被害防止対策等集落の取組にも協力している。

⑤ 行政 福島県・南会津町

県や町の補助事業を区の運営に活用しているほか、鳥獣被害防止対策において、センサーカメラによる野生動物の生息状況調査や、GPSによるニホンジカ追跡調査を協力して行っている。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

中荒井区は、様々な実態課題を直視しながら、集落の持続的経営と集落社会の維持を図るため、平成26年に「なかあらい地域活性化・元気づくり計画」を策定した。住民自らが地域を見つめなおし、問題解決に向け合意形成を図っていく過程は、大変評価できる取組である。

鳥獣被害防止対策においては、他の地区に先駆けて集落ぐるみで広範囲な電気柵の設置や里山林の整備などを実践し、地区内外から視察に訪れるなどモデルケースとなっている。

地域の伝統、文化を継承しながら、人と資源がうまく活かされ、高齢者を含む集落住民全てが一体となって地域づくりに取り組む中荒井地区の活動事例は、過疎、高齢化の課題を抱える同様の集落のモデルとなる大変模範的な事例であると考えられる。

2. 農業生産面における特徴

平成25年に多面的機能支払交付金制度を活用して、農地の維持管理・保全等を行う「なかあらい大地を育む会」を設立。ワークショップ等を通じ、鳥獣による農作物の被害状況と対策について理解を深めつつ、区民総出で電気柵の設置や管理、里山林整備等に取り組む、被害を減少させた。

また、遊休農地の増加や優良農地の荒廃を防ぐため、刈払いや耕起の代行作業に取り組む、地域の農業法人が再生した農地を有効活用し、そばを栽培している。



写真2 水路周辺草刈り作業



写真3 電気柵設置箇所



写真4 電気柵設置作業

3. 生活・環境整備面における特徴

平成29年に東武鉄道の特急列車リバティが運行を開始したのに合わせ、停車駅（中荒井駅）周辺の遊休農地を整備、ザル菊やアジサイ等を植栽し、景観づくりを行っている。

また、組織体制を整備したうえで、集落の課題（除雪作業、災害対策等）解決に取り組み、その状況を会報で区民に情報提供するとともに、様々な伝統行事やイベント開催により世代間交流を促進し、集落の活性化を図っている。

さらに、NPO法人との農福連携や森林保全のための間伐体験を行うとともに、福島大学の学生と連携して集落をPRするなど、様々な組織の協力を得ながらむらづくりに取り組んでいる。



写真5 中荒井区駅沿線のザル菊



写真6 ザル菊植栽作業の参加者



写真7 如活祭での「しんごろう」
づくりの様子



写真8 福島大学生と区民が
交流したワークショップ